

②大規模地震に備えたハード・ソフト対策の実施

【大阪府 光明池土地改良区】

- 施設のハード整備とともに、大阪府ほか、3市との防災協定を締結し、ソフト整備の拡充を図る。
- 大規模地震災害時において、ため池の農業用水を消火用水や生活用水に利用。

地域概要

- 光明池地区は、大阪府南部に位置し、受益地は263haで、4市（堺市、高石市、泉大津市、和泉市）にまたがる。
- 昔からため池により農業用水が供給され、光明池（貯水量370万m³）の他、多数のため池が点在。



光明池土地改良区位置図
(出典：国土地理院HP※一部加筆)

対策の背景

農業用水の有効活用、震災を経験

- 阪神淡路大震災では、消火用水が無くなり、街が10日間燃え続けた様子を目のあたりにした。危機管理体制を構築する必要性を実感。
- 今後、大規模災害が発生した場合、大阪府最大の貯水量をもつ光明池等、農業用水の利用の必要性を実感。
- また、阪神淡路大震災後、「ため池が決壊すれば危険である」との声が住民から上がった。



光明池全景
(出典：光明池土地改良区HPより)

対策の内容・結果

ハード整備

【耐震対策工事】

- 大阪府が事業主体となり、光明池等のため池耐震対策工事を実施。



防災訓練の様子
(出典：国土強靱化民間の取組事例集)



土地改良区による図上訓練の様子
(出典：光明池土地改良区提供資料)

ソフト整備

【防火用水としての利用】

- 理事長の提案で大阪府、3市（高石市、泉大津市、和泉市）、土地改良区で防災協定を締結。
- 初期消火だけでなく、二次用水（飲料水、生活用水など）の利用も考えている。

【防災訓練の実施】

- 協定にもとづいた防災訓練も実施。多くの住民等が参加（延べ8回、参加者1,100名）

【広報活動】

- 行政、ため池管理者等に、農業用水の防火活用の大切さに関するPR活動も実施している。

- 今後、ため池だけではなく、送水路の改修など、行政と協議しながら、更なる防災・減災の強化を図っている。